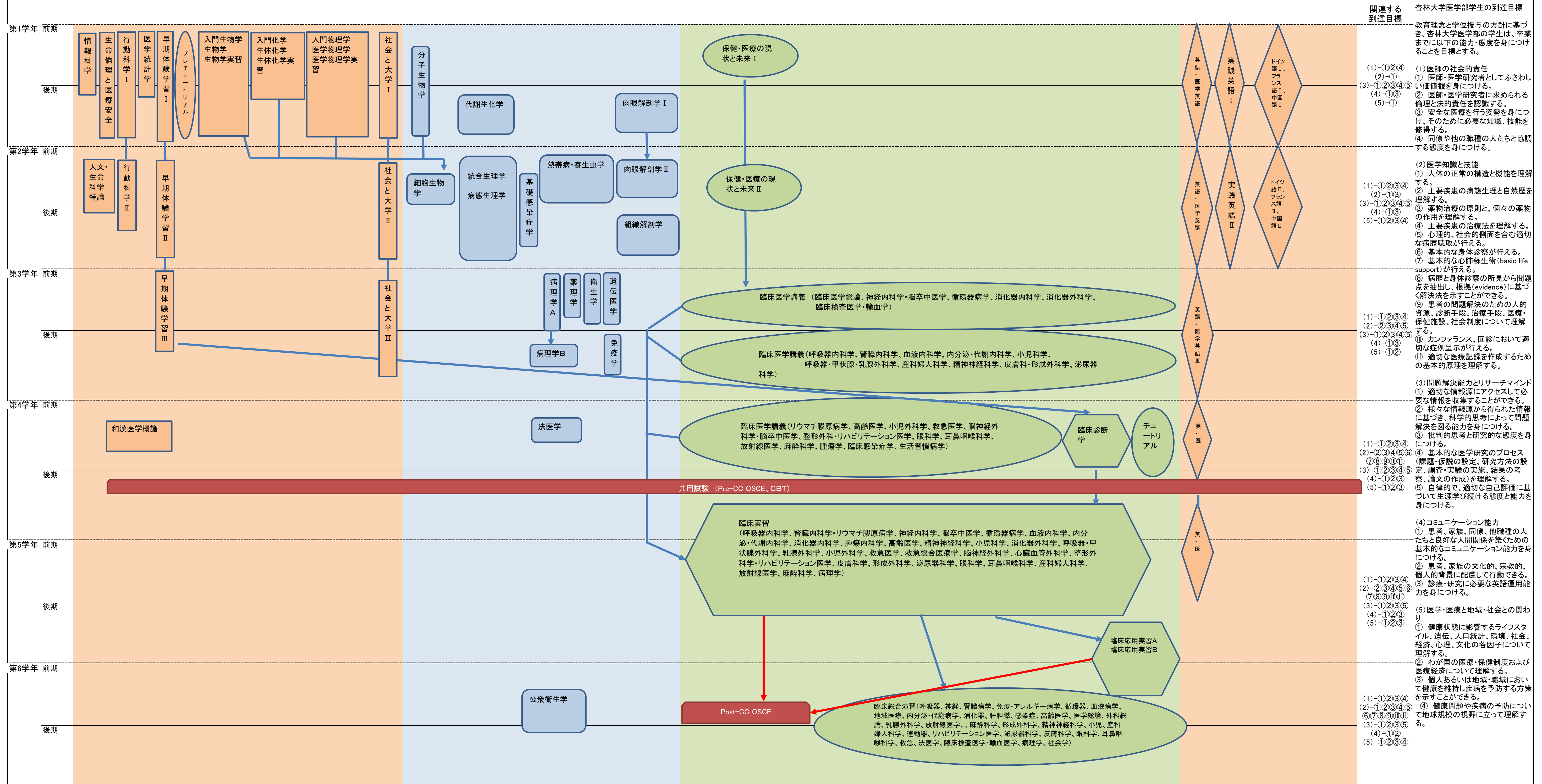


	医療と教養 科学と医療	医学の基礎 人体の機能 異常の発生と制御 人体の構造	臨床医学講義 / 臨床実習	医療と教養 外国語
第1学年	高校時代に学習した生物や化学などの基礎科学の知識を発展させ、医学物理学、代謝生化学、生体化学、医学統計学など、医学にかかわる科学の基礎知識を学習する。同時に、医師に求められる基本的姿勢および知識を学ぶ。とくに「行動科学Ⅰ(医のプロフェッショナリズムとキャリア形成)」、「生命倫理と医療安全」などの講義や「早期体験学習Ⅰ(OSCE患者体験)」を通じて、社会が医師に求める姿勢・態度、そして患者から期待される医師像や医療のあり方を学習する。また、「保健・医療の現状と未来」や「早期体験学習Ⅰ(病院体験学習)」などを通して、先輩医師と交流しながら、医師のキャリアプランを考える。			
第2学年	前期は、前年に引き続き、薬理学、病理学Aなどの基礎医学科目が配置されている。これらの科目はすでに学んだ人体の構造と機能の上さらに「病態」の要素が加わったものであり、その知識や考え方は、医師として患者の病態機序や薬剤の作用機序などを考えるための基礎となる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学A・B、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学、脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。さらに、統一した学びが必要であるとして免疫学、遺伝医学を配置している。			
第3学年	前期は、前年に引き続き、薬理学、病理学Aなどの基礎医学科目が配置されている。これらの科目はすでに学んだ人体の構造と機能の上さらに「病態」の要素が加わったものであり、その知識や考え方は、医師として患者の病態機序や薬剤の作用機序などを考えるための基礎となる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学A・B、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学、脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。さらに、統一した学びが必要であるとして免疫学、遺伝医学を配置している。			
第4学年	前期は、前年に引き続き、薬理学、病理学Aなどの基礎医学科目が配置されている。これらの科目はすでに学んだ人体の構造と機能の上さらに「病態」の要素が加わったものであり、その知識や考え方は、医師として患者の病態機序や薬剤の作用機序などを考えるための基礎となる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学A・B、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学、脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。さらに、統一した学びが必要であるとして免疫学、遺伝医学を配置している。			
第5学年	前期は、前年に引き続き、薬理学、病理学Aなどの基礎医学科目が配置されている。これらの科目はすでに学んだ人体の構造と機能の上さらに「病態」の要素が加わったものであり、その知識や考え方は、医師として患者の病態機序や薬剤の作用機序などを考えるための基礎となる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学A・B、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学、脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。さらに、統一した学びが必要であるとして免疫学、遺伝医学を配置している。			
第6学年	前期は、前年に引き続き、薬理学、病理学Aなどの基礎医学科目が配置されている。これらの科目はすでに学んだ人体の構造と機能の上さらに「病態」の要素が加わったものであり、その知識や考え方は、医師として患者の病態機序や薬剤の作用機序などを考えるための基礎となる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学A・B、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学、脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。さらに、統一した学びが必要であるとして免疫学、遺伝医学を配置している。			



- 杏林大学医学部学生の到達目標
- 教育理念と学位授与の方針に基づき、杏林大学医学部の学生は、卒業までに以下の能力・態度を身につけることを目標とする。
- (1) ①-①②④ (1) 医師の社会的責任
 - (2) ① (2) 医師・医学研究者としてふさわしい価値観を身につける。
 - (3) ①-②③④⑤ (3) 医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任を認識する。
 - (4) ①-③ (4) 安全な医療を行う姿勢を身につけ、そのために必要な知識、技能を修得する。
 - (5) ① (5) 同僚や他の職種の人たちと協調する態度を身につける。
- (2) 医学知識と技能
- ① 人体の正常な構造と機能を理解する。
 - ② 主要疾患の病態生理と自然歴を理解する。
 - ③ 薬物治療の原則と、個々の薬物の作用を理解する。
 - ④ 主要疾患の治療法を理解する。
 - ⑤ 心理的、社会的側面を含む適切な病歴聴取が行える。
 - ⑥ 基本的な身体診察が行える。
 - ⑦ 基本的な心肺蘇生術(basic life support)が行える。
 - ⑧ 病歴と身体診察の所見から問題点を抽出し、根拠(evidence)に基づく解決を示すことができる。
 - ⑨ 患者の問題解決のための人的資源、診断手段、治療手段、医療・保健施設、社会制度について理解する。
 - ⑩ カンファランス、回診において適切な症例呈示が行える。
 - ⑪ 適切な医療記録を作成するための基本的原理を理解する。
- (3) ①-②③④ (3) 問題解決能力とリサーチマインド
- ① 適切な情報源にアクセスして必要な情報を収集することができる。
 - ② 様々な情報源から得られた情報に基づき、科学的思考によって問題解決を図る能力を身につける。
 - ③ 批判的思考と研究的な態度を身につける。
 - (2)-②③④⑤⑥ (2) ⑦⑧⑨⑩⑪ (課題・仮説の設定、研究方法の設定、調査・実験の実施、結果の考察、論文の作成)を理解する。
 - (3)-①②③④⑤ (4) ①-②③ (5) ①-②③ (5) 自律的で、適切な自己評価に基づいて生涯学び続ける態度と能力を身につける。
- (4) コミュニケーション能力
- ① 患者、家族、同僚、他職種のの人たちと良好な人間関係を築くための基本的なコミュニケーション能力を身につける。
 - ② 患者、家族の文化的、宗教的、個人的背景に配慮して行動できる。
 - ③ 診療・研究に必要な英語運用能力を身につける。
 - (3)-①②③⑤ (4) ①-②③ (5) ①-②③ (5) 医学・医療と地域・社会との関わり
 - ① 健康状態に影響するライフスタイル、遺伝、人口統計、環境、社会、経済、心理、文化の各因子について理解する。
 - ② わが国の医療・保健制度および医療経済について理解する。
 - ③ 個人あるいは地域・地域において健康を維持し疾病を予防する方策を示すことができる。
 - (1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ (6) ⑦⑧⑨⑩⑪ (1) 地球規模の視野に立って理解する。
 - (3)-①②③⑤ (4) ①-② (4) ①-② (4) 健康問題や疾病の予防について
 - (5) ①-②③④